

港区在宅医療・介護連携相談支援室 (06) 6574-3403 ※当支援室は医療介護従事者のご相談対応する機関です。



ワクチンの効果や副反応に関するまとめ



港区では新型コロナウイルスワクチンの高齢者の接種が5月から予定されています。現状、わかっている範囲のワクチンの情報をまとめました。利用者等の説明にご活用ください。

1. 新しいワクチンと従来ワクチンのちがい

今回使用されるワクチン (mRNA ワクチン) は、これまでと異なり、ウイルスではなく、ウイルス情報の一部を注射し、この情報をもとにウイルスのたんぱく質の一部が作られ、これに対する抗体ができることでウイルスへの免疫ができる仕組みです。

ちなみに・・・ワクチンを受けた高齢者数 (5/9 現在)

1 回目: 33 万 1821 人 2 回目: 9,326 人

2. ワクチンに期待される効果

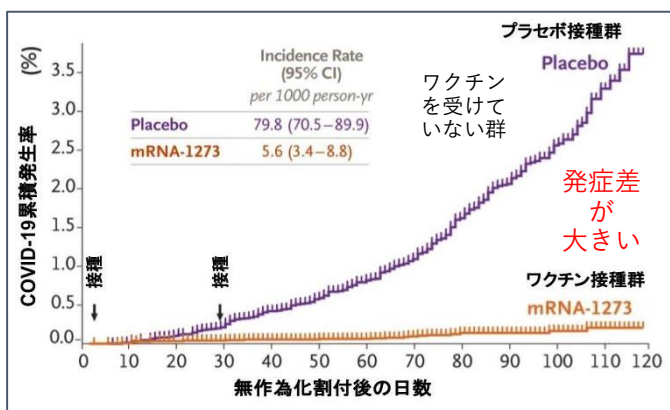
①発症予防 ②重症化予防 ③感染予防



※新型コロナウイルスワクチンの感染予防の効果の実証が難しいため、臨床試験ではワクチンを接種した人のグループと偽薬(プラセボ)を投与した人のグループで発症した人の数を比較して、主に発症を予防する効果について調べられています。(グラフ参照)

3. ファイザー製ワクチンの効果について

- ・1回接種で12週間後から効果が出るといわれていますが、十分な免疫ができるのは、2回目の接種を受けてから7日程度経って以降とされています。
- ・発症予防効果は約95%と報告されています(インフルエンザワクチンは40~60%)。
- ・1回目の接種後、通常3週間の間隔で2回目の接種を受けます。
- ・新しいワクチンのため、効果の持続期間はまだわかりません。



4. ワクチンの副反応について

1) 穿刺部位の疼痛や全身の何らかの副反応が接種した半数以上の人にあるといわれています。

副作用	発生の確率
痛み 穿刺部位	70.7 %
倦怠感	33.4
頭痛	29.4
筋肉痛	22.8
寒け	11.5
熱	11.4
腫れ	11.0
関節痛	10.4
吐き気	8.9

(注) 米疾病対策センター (CDC) の資料

①概ね2~3日程度、長くて数日で症状はよくなります。

②2回目の接種時に症状が強くなるといわれています。

2) アナフィラキシーショック

・頻度は低く、100万人に5人程度といわれています。

【主な症状】

- 皮膚のかゆみ、じんま疹、皮膚が赤くなる
 - くしゃみ、のどのかゆみ、声のかすれ、息苦しさ
 - 腹痛、吐き気 ●物が見えにくい ●気分の不良
- ※接種後、30分以内に起こる反応のため、すぐに帰宅せずに接種場所で待機が必要です。

・アナフィラキシーが起こる頻度の比較

抗生物質	mRNA ワクチン	インフルワクチン
5000 人に 1 人	20 万人に 1 人	100 万人に 1 人

※インフルエンザワクチンより頻度は高いものの、抗生剤よりも低いので安全性が高いと考えられています。

5. 接種にあたっての準備

- ① かかりつけ医にワクチン接種が可能か事前に相談しておきましょう。
- ② ワクチンの問診票を記入し、持病が確認できるもの、薬手帳などを準備し、接種会場に持参しましょう

* ワクチン接種までの流れ

- ① 接種券 など
- ② 予約開始 はがき
- ③ 予約
- ④ 接種

接種券

